

石狩地域森林ふれあい推進センターの森林再生・森林づくり、森林環境教育等の取り組みについて

石狩地域森林ふれあい推進センター 中澤 真一郎 高尾 聡
温井 和樹 坂田 康治

石狩地域森林ふれあい推進センター

・主として札幌市、小樽市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩郡、積丹郡、古平郡及び余市郡の国有林野及び国庫帰属森林(相続等により取得した土地所有権の国庫への帰属に関する法律(令和3年法律第25号)第12条第1項の規定により農林水産大臣が管理する土地のうち主に森林として利用されているものをいう。以下同じ。)を活用して特定非営利法人等が行う自然再生及び森林環境教育に対する支援に関する事務を処理する。(森林ふれあい推進センターの設置等にかかる北海道森林管理局の組織の細目に関する規程)

主な活動内容

・野幌森づくり塾

平成16年9月に発生した台風による野幌森林公園(国有林)の風倒被害跡地について、市民との協働により「風に強く百年前の原始性が感じられる自然林」へと再生する活動(野幌森林再生プロジェクト)の一つとして実施しています。

一般公募により参加者を募集し年3回森林再生活動の体験などを取り組んできています。

令和5年度の取り組み

- 第1回(5月17日): 森林と水について(浄水施設の見学)
- 第2回(6月22日): 特定外来生物(オオハンゴンソウ)の除去
- 第3回(10月10日): きこの生態と豆知識

・札幌水源の森づくり

札幌市近郊の定山溪国有林は札幌市の水源林として重要な役割を果たしており、この貴重な水源林を次世代へ引き継ぐ取り組みとして、「町の中で一人1本苗木づくり、次代へ引きつごう「水源の森」として2004年に「札幌水源の森づくり2004」を開催し、以降、札幌市中心部(創成川公園)において水源の森に植えるポット苗木づくり(カミネッコ)をする体験型イベントとして森林の役割や大切さなどについて市民へPRする普及啓発を実施しています。(今年で18回目)

・地域の森から学ぶ森づくり

定山溪国有林において地域に根ざした取り組みとして、定山溪小・中学校の児童・生徒と「地域のもりから学ぶ森林づくり」(森林教室)を実施しています。

- * 身近な自然の観察(植生調査)と保護(学校周辺緑地の環境保全等)
- * 生徒自らが目指す森林のイメージを描き、それを実現する「ゆめの森づくり」(巣箱、丸太イス、ブランコ等設置)



外来種駆除



市民によるポット苗づくり



中学生による苗木づくり



水源の森への植栽



きこの生態の説明



ゆめの森のブランコ

課題と今後の展開

ボランティア団体等においては、現役世代が平日の就労・休みの日の家庭行事等により新規加入が極めて少ない中、高齢化に伴う担い手不足となっていること、気軽に参加できるアクセスのよい活動フィールドの確保が難しいことなどあるが、イベント等の土・日開催や関係団体との連携を図る中から無理なく参加できる行事を検討するなど、小さなこと・身近なことから森林再生活動の必要性を広める取り組みを進めていきたいと考えています。